

企業間労働移動に伴うスピルオーバー効果が存在するときの 多国籍企業と現地企業による技術投資競争と経済厚生分析

滋賀大学 大川良文*

(要約)

本論文では、企業間労働移動に伴う技術のスピルオーバーが存在するときの、多国籍企業の直接投資の受入国内における、多国籍企業の子会社への技術移転投資と現地企業の学習投資の決定と、子会社で働く労働者の引き抜き競争を考慮した 3 段階ゲームモデルを構築している。このモデルを用いて、労働移動を通じた子会社から現地企業への技術のスピルオーバーが発生する条件の導出と、直接投資受け入れ国の経済厚生分析が行われている。その結果、次のような結論を得た。1) 初期状態における現地企業と子会社の技術格差がある程度大きいとき、多国籍企業が積極的に子会社への技術移転投資を行うことによって、現地企業へのスピルオーバーを防ぎ独占状態を実現する非スピルオーバー均衡の単独均衡が生じるのに対し、両企業の技術格差がある程度小さいときには、現地企業が積極的な学習投資を行うことによって子会社からのスピルオーバーが実現するスピルオーバー均衡の単独均衡が生じる。2) 初期状態における両企業の技術格差が中程度の時には、スピルオーバー均衡と非スピルオーバー均衡の両方が成立しうる複数均衡が生じる。3) 複数均衡間の経済厚生を比較すると、両企業が輸出市場向けに製品を供給しているときには非スピルオーバー均衡が、受入国内市場向けに製品を供給しているときにはスピルオーバー均衡の方が、直接投資受け入れ国の経済厚生にとって望ましい。

* 連絡先：522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 滋賀大学。

E-mail : okawa@biwako.shiga-u.ac.jp